

北見市における景気動向調査報告書

< 第 IV 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調 査 時 点 平成29年4月14日

(2) 調査対象期間 平成29年1月～3月期実績および平成29年4月～6月期見通しについて調査した。

2. 調 査 対 象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回 収 状 況

業 種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回 答 率
製 造 業	30社	21社	70.0%
建 設 業	30社	22社	73.3%
卸 売 業	30社	23社	76.6%
小 売 業	35社	23社	65.7%
サービス業	25社	17社	68.0%
合 計	150社	106社	70.6%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

II . 概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成28年度第Ⅳ四半期<平成29年1月～3月>の北見市における業況は、前年同期比で「好転企業」29.2%、「悪化企業」28.3%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は0.9となっています。

このD・I値を前年同期と比較してみると、前年同期0→今期0.9と0.9ポイントの好転を示しています。また、前期<28年度第Ⅲ四半期>との比較でも、前期△7.4→今回0.9と8.3ポイントの好転となりました。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値14.4、建設業D・I値27.2、卸売業D・I値△8.6、小売業D・I値△13.1、サービス業D・I値△17.7となっており、前年同期調査と比較すると、製造業で14.4ポイント、建設業で18.1ポイントの好転となった一方で、卸売業26.7ポイント、小売業で13.1ポイント、サービス業で4.6ポイントの悪化となりました。

特に、卸売業ではD・I値26.7ポイントの大幅な悪化傾向を示し、プラスからマイナスへ転じる結果となりました。卸売業の業種内訳を見ても多くの業種で悪化を示しています。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」17.9%、「悪化企業」33.0%でD・I値△15.1と、前年同期見通し(△8.2)に比べ6.9ポイントの悪化傾向を示し、厳しい状況が続く来期見通しとなっております。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」38.1%、「減少企業」28.6%、D・I値9.5と前年同期に比べ14.1ポイントの好転を示しました。

採 算

前年比で「好転企業」19.0%、「悪化企業」33.4%、D・I値△14.4と前年同期より23.5ポイントの大幅な悪化となりました。

来期見通し

業況D・I値△23.8、生産高D・I値△14.3、資金繰りD・I値△14.2と前年同期に比べ全て悪化傾向を示し、依然として厳しさが伺える来期見通しとなっています。

2) 建設業

完成工事高 前年比で「増加企業」36.4%、「減少企業」31.8%、D・I値4.6と、前年同期に比べ50.4ポイントの大幅な好転傾向を示しました。

採算 前年比で「好転企業」36.4%、「悪化企業」22.7% D・I値13.7と前年同期に比べ26.2ポイントの大幅な好転傾向を示しました。

来期見通し 業況D・I値4.6、完成工事高D・I値0、資金繰りD・I値△9.1と前年同期に比べ、業況と完成工事高で好転傾向を示しており、予断を許さないものの明るさが見える来期見通しとなっています

3) 卸売業

売上高 前年比で「増加企業」26.1%「減少企業」34.8%、D・I値△8.7と前年同期に比べ22.4ポイントの大幅な悪化傾向を示し、プラスからマイナスに転じる結果となりました。

採算 前年比で「好転企業」17.4%、「悪化企業」34.8%、D・I値△17.4と前年同期に比べ26.5ポイントの大幅な悪化傾向を示し、プラスからマイナスに転じる結果となりました。

来期見通し 業況D・I値△21.7、売上高D・I値△17.4、資金繰りD・I値4.4と、前年同期に比べ全て悪化傾向を示し依然として厳しさが伺える来期見通しとなっています。

4) 小売業

売上高 前年比で「増加企業」30.4%「減少企業」30.4%、D・I値0と前年同期と比べて4.3ポイントの好転傾向を示しました。

採算 前年比で「好転企業」21.7%「悪化企業」30.5%、D・I値△8.8と前年同期と比べて4.5ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し 業況D・I値△13.0、売上高D・I値△8.8、資金繰りD・I値△13.0と前年同期に比べ全てで若干の悪化傾向を示し、依然として厳しさが伺える来期見通しとなっています。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」35.3%、「減少企業」41.2%、D・I値△5.9と前年同期と比べ27.4ポイントの大幅な好転傾向を示しました。

採算

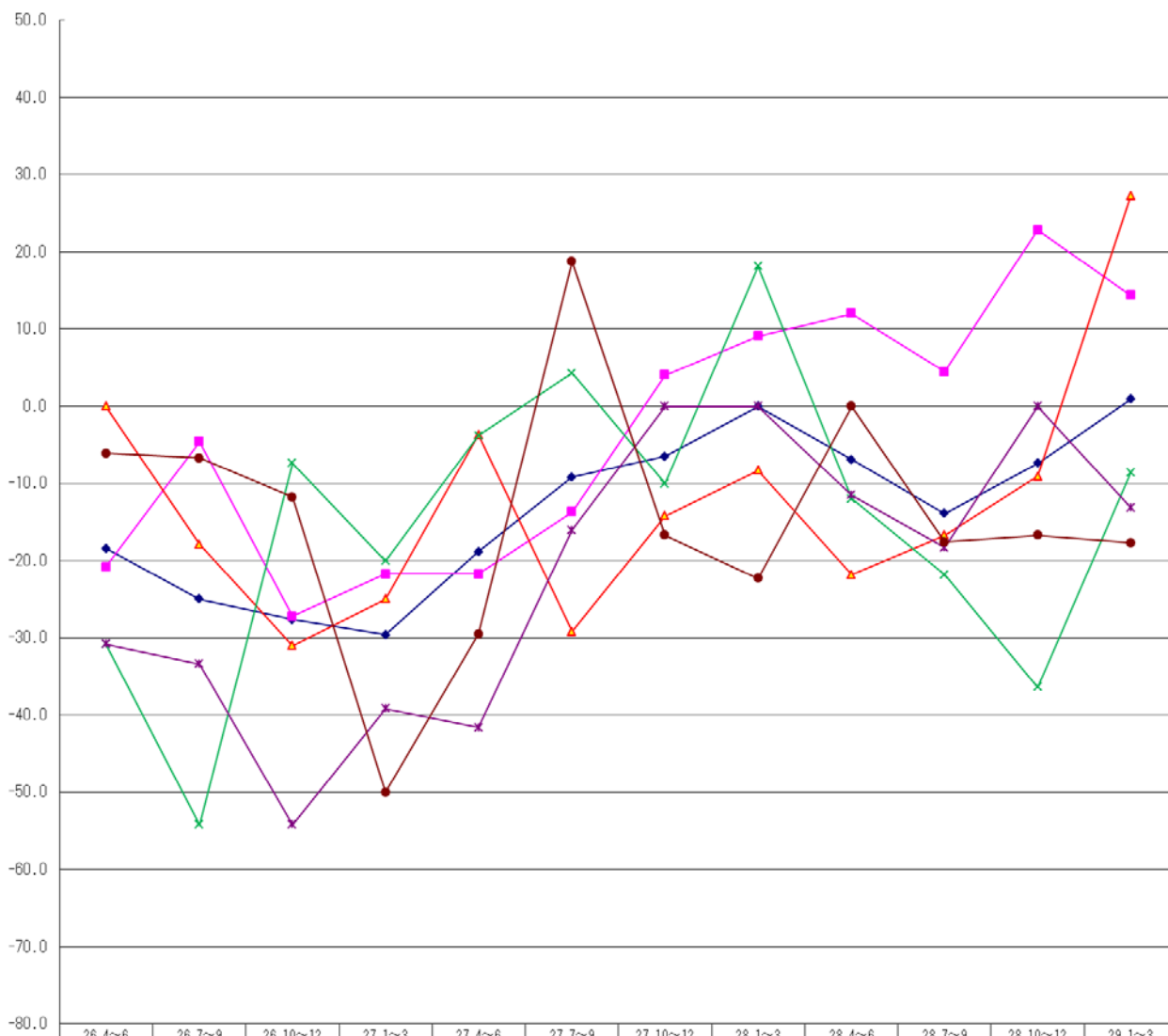
前年比で「好転企業」11.8%、「悪化企業」35.3%、D・I値△23.5と前年同期から15.4ポイントの好転傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△23.6、売上高D・I値△23.6、資金繰りD・I値△23.5と、前年同期と比べ全てにおいて若干の好転となっているが、依然として厳しい来期見通しとなっています。

業況（前年同期比）

◆ 全業種 ■ 製造業 ▲ 建設業 × 卸売業 ◆ 小売業 ● サービス業



	26.4~6 26年度Ⅰ	26.7~9 26年度Ⅱ	26.10~12 26年度Ⅲ	27.1~3 26年度Ⅳ	27.4~6 27年度Ⅰ	27.7~9 27年度Ⅱ	27.10~12 27年度Ⅲ	28.1~3 27年度Ⅳ	28.4~6 28年度Ⅰ	28.7~9 28年度Ⅱ	28.10~12 28年度Ⅲ	28.1~3 28年度Ⅳ
◆ 全業種	-18.4	-25.0	-27.8	-29.6	-18.8	-9.2	-6.5	0.0	-6.9	-13.9	-7.4	0.9
■ 製造業	-20.8	-4.6	-27.2	-21.7	-21.7	-13.7	4.0	9.1	12.0	4.5	22.8	14.4
▲ 建設業	0.0	-17.9	-31.0	-25.0	-3.7	-29.2	-14.2	-8.3	-21.8	-16.7	-9.1	27.2
× 卸売業	-30.8	-54.2	-7.4	-20.0	-3.8	4.3	-10.0	18.1	-12.0	-21.8	-36.4	-8.6
◆ 小売業	-30.8	-33.4	-54.2	-39.2	-41.6	-16.0	0.0	0.0	-11.5	-18.3	0.0	-13.1
● サービス業	-6.1	-6.7	-11.8	-50.0	-29.5	18.7	-16.7	-22.3	0.0	-17.6	-16.7	-17.7

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少
建 設 業	人 材 不 足	人 件 費 増	諸 経 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少
卸 売 業	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増
小 売 業	同業者間の競合	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増
サービスマ業	人 材 不 足	同業者間の競合	人 件 費 増	諸 経 費 増	得 意 先 減 少
合 計	人 材 不 足	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 件 費 増	得 意 先 減 少

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○前年同期比

全業種で見ると、前年同期調査の1位と2位が入れ替わり「人材不足」がトップとなった。前年4位の「諸経費増」が3位、5位だった「人件費増」が4位となり、「得意先減少」が新たに5位となった。

また、業種別でみるとサービス業で前年5位の「人材不足」が大きく順位を上げトップとなり、製造業でも前年4位の「人材不足」が2位と順位を上げる結果となった。その他の業種では順位に大きな変動は無かった。

全体を通して、「人材不足」の問題が上位に上がってきており、より深刻化してきている。また、諸経費や人件費の増加という問題も前年同様に抱えていることが伺える。

※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

(製造) ○設備の老朽化 (麵製造)

(建設) ○従業員の高齢化 (土木・建築)

○長時間労働の問題 繁忙期 (工事の終盤) に現在検討されている100時間未満の時間外労働で対応できる体制を確保できるか。技術者 (現場代理人) を二人による管理にしないとクリアできないと思うが、コスト高につながる。まして、ただでさえ技術者不足の現在、抜本的対策が確保できない (電気工事)

○公共工事の初期発注 (管工事)

○少子化、人口減に因る物件減少 (板金工事)

(卸売) ○運賃の負担 (飼料)

(小売) ○何のために経営しているのか、基本に戻り見直しをするべき (眼鏡)

○商店街の閉塞感。特に土日は2条通り東から西まで人影が全く見えず、この街に小売店は不必要なのかと思う。年金の出た月に少し潤いがあるようですが、明るい希望が持てない (絵画)

(サービス) ○人材不足が続いている (ビルメンテナンス)

○人材不足が深刻であり、働き方改革が必要 (理美容)

業 況

製造業 ⇒ 好転 (金属製品、農業用機械、農産物加工製造、生麺類等、造作材、一般製材
産業用機械)

悪化 (印刷、飲料、木材チップ、建具)

建設業 ⇒ 好転 (電気工事、冷暖房設備、金属製屋根、給排水設備)

悪化 (管工事)

卸売業 ⇒ 好転 (鉄鋼、米麦、一般製材、見回り品、自動車部品、医療用機器)

悪化 (食料・飲料、機器・厨房用機械器具、化粧品、石油製品)

小売業 ⇒ 好転 (自動車、介護用品)

悪化 (酒、野菜、米穀類、鮮魚)

サービス業 ⇒ 好転 (飲食、カーリース、喫茶)

悪化 (ホテル、クリーニング、)

(※太字アンダーライン表示は重複該当業種)